

<横浜市議員（旭区選出）古川なおきの市政活動報告>

第72号
2007年10月15日
一月刊



古川なおきレポート

古川レポート編集部 〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘252-50
TEL.045-391-4000 FAX.045-366-9700 naoki@furukawa2002.com



神奈川県ライトセンター

ふくしー日教室に参加して

こんにちは！

読書の秋、スポーツの秋を元気に楽しんでいますか？私は行政や経営等実用的な本ばかりを好む傾向がありますので、たまには小説等も読んでみようと思っています。

さて、先日地元のライトセンターが主催する「ふくしー日教室」に事務所の学生ボランティアと一緒に参加させていただきました（2面に学生の参加レポートを掲載）。視覚障害について学ぶ教室ですが、最初に全盲のライトセンター職員の方から視覚障害とはどのような障害なのかお話いただきました。職員の方は私と同世代でもあり、障害で苦勞なされた実体験のお話でしたので思わず目頭が熱くなりました。県内には約17,000人も視覚障害の方がおられ、全く光の見えない全盲の方は視覚障害者の10人に1～2人ということや盲学校が県内に3校しかないこと、後天性の視覚障害者が多いことも恥ずかしながら初めて知りました。また、ライトセンターでは、約800人も赤十字ボランティアの方がサポートされていることに感動しました。

神奈川県ライトセンターは、昭和49年、神奈川県内の視覚障害者を対象に総合的なサービスを提供する施設として神奈川県が設置し、日本赤十字社神奈川県支部が受託運営してきました。平成5年にはスポーツ振興事業を加え、リニューアルオープンしています。主な事業として、①情報提供事業（点字・録音図書などの製作貸出）②指導訓練事業（各種相談・訓練：歩行・点字等）③ボランティア育成事業（点字・録音・誘導・拡大写本・在宅者援助・スポーツ・パソコンサポート・デジタル編集等の援助ボランティア養成）④スポーツ振興事業（視覚障害者が安心して利用できる体育館、プール、グラウンドなどの施設管理）⑤普及啓発事業（福祉教室の開催や施設見学会の開催）、その他視覚障害者と晴眼者が自主的に組織するクラブ活動（スポーツ系・文科系）に対して援助を行っています。

私が体験した「ふくしー日教室」のプログラムは視覚障害者からの話、誘導訓練、施設見学となっていて、毎月第1土曜日に開催されています。アイマスクをつけ全く見えない状態で歩くことは、肘につかまり誘導されていても怖かったです。白い杖を持った視覚障害者が道で戸惑っていたら、気軽に声をかけたいと思いました。視覚障害者は見えないため自分から声をかけることはできませんから、私達が声をかけることは大変重要なことであると職員の方にお聞きしました。

声をかけて断られることもあるかもしれませんが、古川なおきレポートをお読みの皆さんにはぜひ「気軽に」視覚障害者に「何かお手伝いしましょうか？」の声をかけてほしいと思います。

プログラム終了後に職員の方々と引き続きお話をさせていただきました。二俣川駅からライトセンターまでの道に点字ブロックがありますが、点字ブロックの上には自転車やバイクを絶対に駐輪させないよう対策してほしいとの話をいただきました。視覚障害者が点字ブロックの上を歩く時は普通の道路を歩く時に比べて安心しているので、障害物があると大きな怪我になります。心無い方の行為が大変な危険につながるので、意識啓発とともに違反者には厳しく指導すべきと思いました。また点字ブロックの設置と維持補修にしっかりと取り組む必要性を再認識しました。

ところで、アメリカでは点字ブロックはあまり見られません。日常的に視覚障害者に対し声をかける人が多いため必要性がないようです。日本もアメリカに学ぶべきであり、ハードだけでなく心のバリアフリーが大切だと思います。

最後になりますが、視覚障害者の方の苦勞を思えば、自分が苦勞や困難に思っていることは、何でもないことに感じました。今回の体験を横浜市の障害者施策に活かしていきたいと思います。ライトセンターでは11月10日（土）に「ライトセンターフェスティバル」を開催します。私も参加していますので皆さんもぜひ参加してみませんか？

横浜市議員 古川なおき

※追伸。毎日二俣川駅を利用される全盲の職員の方から、古川なおきレポートを読みたいとのありがたい言葉をいただき感謝しました。今後は、点字訳や音声テープなど、喜んで対応させていただきます！

<ふくしー日教室ご案内> ※参加費は無料、筆記用具をご持参ください

- ◎内容：1部：①視覚障害者からの話
②体験学習（偶数月は誘導体験、奇数月は点字体験）
2部：施設見学会
- ◎開催日：毎月第1土曜日（今年の11月は第3土曜日）
- ◎時間：1部：13時～15時 2部：15時～16時
- ◎会場：神奈川県ライトセンター
- ◎対象：県内の小学生・中学生および在住の方
- ◎申し込み：開催日の前日午後5時までにライトセンター
指導課（045-364-0024）まで
お申し込み下さい（定員で締め切らせて頂きます）
- ※小学生の参加は保護者の同伴をお願いいたします。

古川なおき （古川直季） プロフィール

昭和43年8月31日横浜市生まれ 39才
県立希望ヶ丘高校・明治大学卒業
横浜銀行勤務後、議員秘書となる
平成7年横浜市議員初当選（最年少26才）
平成19年道路・安全管理委員会副委員長
同 青少年市民スポーツ特別委員会
自民党横浜市旭区連合支部支部長

日本動物福祉協会横浜支部支部長
鶴ヶ峰商店街協同組合顧問
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会評議員
旭区スポーツダンス協会顧問
旭区サッカー協会顧問
旭区卓球協会顧問
旭区食品衛生協会顧問

NPO法人スクール・エイド・ジャパン理事
卓球本間クラブ所属
学校法人八洲学園理事
横浜青年会議所（JC）
神奈川・横浜ディスプレイ協同組合顧問
明治大学公共政策大学院在学中（青山ゼミ）

<1面より続く>

ライトセンターの 「ふくしー日教室」に参加 して感じたこと

古川なおきさんと一緒に、ライトセンターにて月一回開催されている『ふくしー日教室』に参加してきました。私たちは、日常生活において視覚障害をもつ方の存在は知っていても、その方たちが日常生活をどのように過ごされているかについて、知っていることは少ないと思います。健常者からしてみると、目が見えないなかでできる事というのは、限られた範疇での事と捕らえがちではないでしょうか。今回の教室に参加して、私が一番感銘を受けたのは、障害をもちながらもスポーツやジムに汗を流す姿です。また、今回この教室でお話を伺った全盲の職員さんの『目が見えなくても、できる事のほうがたくさんある』との言葉にも感化され、挑戦することの重要さを改めて噛み締めました。皆様は是非ともこのライトセンターフェスティバルへ足を運んでいただき、さまざまなことを感じていただきたいと思います。

古川なおき学生会 大学1年生 B

ライトセンターフェスティバル & 「あい・あい」ひろば

開催のご案内

ライトセンターって？視覚障害って？ボランティアって？ここは何？・・・ぜひ、ライトセンターフェスティバルにお越しください。いろいろな体験・展示でその「？」にお答えします。

どなたでも
ご参加
いただけます！

日時：2007年11月10日(土)

会場：神奈川県ライトセンター

時間：10:00～16:00

主な内容：ロービジョン体験(みえにくさの体験)

点字・録音・誘導・拡大体験、体力測定

視覚障害者用機器展示・紹介・販売

ボランティア活動紹介コーナー

10分間マッサージ

富士見丘中・高等学校ブラスバンド部演奏

(10:00～10:30)

ぜひ
体験して
ください！

中尾小学校リコーダー演奏(13:00～13:20)

世界の料理テント村(悪天中止)

世界各国の料理が10テント並び、販売されます！

ネーミングライツが決定しました！

三ツ沢公園球技場の新名称

「ニッパツ三ツ沢球技場」に

古川なおきが横浜市に提案したネーミングライツ(施設命名権)は、第一号として平成17年に日産自動車(株)と5年間の契約で横浜国際競技場に導入されました(現在は日産スタジアムとなっています)。古川なおきレポート68号でも特集しましたが、今回の三ツ沢球技場のネーミングライツは2例目となり、市民に親しまれホームチームの応援に行きたくする愛称になったと思います。古川なおきは今後も横浜市にとって有益な政策を提案していきます！

☆ネーミングライツ基本契約の概要☆

1 新名称

「ニッパツ三ツ沢球技場」

*略称「ニッパツ」または「ニッパツ球技場」

*英文表記「NHK SPRING MITSUZAWA FOOTBALL STADIAM」

2 契約条件

命名権対価 年額8,000万円を基本(各年度毎の「年度別契約」により年額を確定します。)

契約期間 平成20年3月1日から平成25年2月28日まで(5年間)

3 命名権以外のスポンサーメリット

Jリーグ公式戦観戦枠、球技場内の広告スペースの無償提供、施設無償使用权等

なお、公園内外の案内サイン等を新名称に変更します。

4 スポンサー決定経緯

平成19年8月6日、日本発条株式会社から申し込みがあり、庁内選定委員会における審査を経て平成19年8月23日優先交渉権者として決定しました。その後、本市と日本発条株式会社との契約条件の詳細などの協議・調整を進め、このたび基本契約の締結となりました。

【三ツ沢公園球技場】

*沿革

昭和30年 国民体育大会のラグビー会場として設置

昭和39年 全面的に改修の上、東京オリンピックのサッカー会場として使用

平成5年 Jリーグ発足に伴い横浜マリノス、横浜フリューゲルスホームグラウンドとなる

現在 Jリーグ横浜FC、横浜F・マリノスのホームスタジアム

*収容人員 15,046人

*利用状況 Jリーグ公式戦、全国高校サッカー選手権、ラグビー関東大学リーグ公式戦、ラグビートップリーグ戦等

*その他の施設 陸上競技場、テニスコート、野球場、体育館等